

4 モデル地区の考え方と事業内容

モデル地区	考え方	事業内容（案）
街なかの 利便性の 高い住宅地	駅やバス停が近くにある街なかで、旗竿地など複数のまとまった空き家などがある地区	<p>◆<u>住宅の再整備</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・旗竿地（空き家2戸）を対象とした戸建住宅の再整備 ・複数(3～6戸)の空き家、空き地を対象とした戸建住宅の再整備
郊外の 旧新興住宅地	開発時に区画や道路が整備されて40年以上が経過している旧新興住宅地で複数のまとまった空き家がある地区	<p>◆<u>新たな居住者（子育て世帯）を流入</u></p> <ul style="list-style-type: none"> ・空き家のリノベーション、建替え ・空き家の他の用途（福祉、店舗など）での利用
主要駅周辺	立地適正化計画の都市機能誘導区域のうち、若戸大橋・若戸トンネル無料化など、地域活性化への期待とまちづくりへの機運が高まっている若松地区を選定	<p>◆<u>街のにぎわいの形成</u></p> <ol style="list-style-type: none"> ① 地権者に土地の活用・処分方法の意向調査を行い、情報を収集する。 ② 利用希望者への情報提供や支援メニューの案内などを行う。 地権者や利用希望者と勉強会を開催し、利用方法を検討。課題解決のため、コーディネーターや専門家を派遣。 ③ 勉強会を通じて都市計画協力団体の設立を促し、情報共有・意見交換を行い、空き地の発生抑制と地域主体のまちづくりを推進する。

※ モデル地区は「北九州市立地適正化計画」の居住誘導区域内とする。